

## 第8回目・アセアン経済大臣会合（AEM-METI）

2001年9月12日

ベトナム・ハノイ

共同声明（仮訳）

1. 第8回のアセアン経済閣僚と日本の経済産業大臣の間での会合は、2001年9月12日、ベトナムのハノイにおいて開催された。会合においては、ベトナムのヴー・コアン商業大臣と日本の平沼赳夫経済産業大臣が共同議長を務めた。

### アセアンと日本の貿易投資関係

2. 閣僚は、アセアンと日本における最近の状況について意見を交換した。閣僚は、アセアンから日本への輸出が1999年の370億ドルから2000年の520億ドルへと38.1%増加し、同じ期間で輸入が1999年の510億ドルから620億ドルに増加したことに留意した。アセアンと日本は、両者間の貿易と投資を一層促進させることの重要性について認識した。
3. さらに、閣僚は、2000年のアセアンのプラスの経済成長及び楽観的な見方にも関わらず、本年、特に世界経済の減速など、下降する多くのリスクによりこれらの傾向が抑制されるだろうという意見の一致があることに留意した。
4. アセアンは、AFTA、AIA、e・アセアン・イニシアティブ、IAIの促進を含め、世界経済の減速の効果に対抗するための措置のいくつかを日本に紹介した。また、日本は、日本経済の再構築と再活性化のための措置について、アセアンの閣僚に説明した。

### 日アセアン経済協カイニシアティブ

#### 日アセアン経済産業協力委員会（AMEICC）

5. カンボジアのチャン・プラシット商業大臣と日本の平沼赳夫経済産業大臣は、AMEICCの共同議長として、閣僚に対して、同日開催された第3回AMEICC会合の結果について概要を説明した。閣僚は、特に、アセアンの中核的人材育成機関（COE）の強化及びネットワーク化、新規加盟国のCOEを対象に行われる機材供与を伴う専門家派遣など、AMEICCの下でのプロジェクトが時宜を得て効果的に実施されてきたことに感謝をもって留意した。

6. 閣僚は、日本のJETROアジア研究所によるアセアンの全般的な競争力調査の結果に留意し、それを歓迎した。

#### 日アセアンCEP(Closer Economic Partnership)専門家グループ

7. 閣僚は、日本とアセアンの経済統合スタディを行うという、タイのチェンマイにおける第7回AEM-METIでの決定に従って、日アセアンCEP専門家グループの実施要領(TOR)及びその設立を承認した。閣僚は、専門家グループに対し、そのスタディの結果を2002年に開催される次回の日アセアン経済大臣会合へ報告することとさせた。

#### エネルギー協力

8. 閣僚は、SOME-METI会議を通じたエネルギー問題での効果的な協力を歓迎するとともに、協力がさらに深化することへの期待を表明した。

#### 新しい協カイニシアティブ

9. アセアンの閣僚は、アセアン新規加盟国の地場産業振興支援及びアセアンの基準認証制度開発の支援という日本の新しいイニシアティブを歓迎した。

## 閣僚リスト

会議への出席閣僚は以下のとおり。

- i) ヴー・コアン商業大臣（ヴェトナム）
- ii) ラーマン産業・一次資源大臣（ブルネイ）
- iii) チャン・プラシット商業大臣（カンボジア）
- iv) リニ・スワンディ商工大臣（インドネシア）
- v) 平沼経済産業大臣（日本）
- vi) スリウォン工業・手工業大臣（ラオス）
- vii) ラフィダ通商産業大臣（マレーシア）
- viii) エーベル国家平和発展評議会（SPDC）議長府付大臣（ミャンマー）
- ix) トマス・アキノ貿易産業省次官（フィリピン）
- x) ジョージ・ヨー通商産業大臣（シンガポール）
- xi) アディサイ商務大臣（タイ）
- xii) セヴェリーノ事務局長（ASEAN事務局）